

Take Action! Listen

段階的に聞き取り、 考えることを習慣化する



田嶋 美砂子
* (茨城大学)

内容解説資料は
こちらから
ご覧いただけます



はじめに : Take Action! の意味するところ

Take Action! Listenは、リスニング指導の核を担う活動です。この活動がTake Action!と名づけられている背景には、**音声を聞き取るだけでなく、聞き取った内容をもとにして生徒一人一人が考え、行動することもリスニング指導に含めたい**という意図が存在します。そのため、Take Action! Listenにはリスニングに加え、Thinkというポストリスニングのタスクも設けられています。また、BONUSや

Soundsなどのタスクもあります。さらに、巻末資料にはこの活動で使用する音声のスクリプトも掲載されています。

Take Action! Listenに用意されているさまざまな仕掛けは、どのような授業実践を可能にするのでしょうか。ここでは、3年Take Action! Listen 2「遊園地の園内放送」を取り上げ、授業展開の一例を紹介したいと思います。

SETTING : 場面設定を確認し、背景的知識を活性化させる

SETTINGには、「夏海はマツと一緒に、クラウンランド遊園地に遊びに来ています」のように、設定が明示的に書かれています。タイトルとSETTINGで、場面が「遊園地」であること、また、これから聞く音声「園内放送」であることが理解できます。この理解をスタート地点とすることにより、音声を適切に聞き取る姿勢を整えることができるでしょう。

次に、「遊園地の園内放送」は通常、どのような情報を得るときに

聞くのかという点について、生徒がこれまでに培ってきた経験や知識を活性化させながら、考える時間を設けます。その際、右のようなシロクマのつぶやきを用いることも、有効です。また、音声を流す前に、Expressionsに掲載されている語句を確認しておくことも、適切に聞き取る一助となります。

遊園地を楽しく回るためには、それぞれのアトラクションのどんな情報が大事なかな。



1st Listening～3rd Listening : 段階的に聞き取る

実際の聞き取りは、1st Listening、2nd Listening、3rd Listeningの3つの段階に分かれています。これらのタスクでは、同じ音声を少なくとも3回聞くこととなりますが、聞き取りのポイントがそれぞれ異なります。

1st Listeningの目的は、遊園地のアトラクションについて、メモにまとめることです。メモの項目は、紙面にあらかじめ記載されているので、音声を流す前にそのメモを見て、それぞれのアトラクション(Roller Coaster, Haunted House, Special Show)の情報(待ち時間、閉館時間、開演時間など)を確認させると、聞き取るポイントがより明確になります。

2nd Listeningの目的は、聞き取れなかった部分に意識を向けながら、もう一度音声を聞くことです。それぞれのアトラクションに関する情報はメモの順番通りに流れるので、放送の序盤・中盤・終盤のどこに注目したらよいのかを把握してから、聞くように指示するとよいでしょう。生徒の聞き取り具合が思わしくないときは、ペアやグルー

プを作り、互いに助け合いながら、聞く時間を設けてもよいかもしれません。また、メモの答え合わせは、1st Listeningと2nd Listeningの後に行くと、英語が苦手な生徒でも、自信を持って自分の解答を述べるができると思います。

3rd Listeningでは、巻末資料のAudio Scriptsを活用します。ここではスクリプトの有効な使用方法が3つ紹介されていますが、授業では1つめの「スクリプトを見ながら、音声を聞いてみる」ことに焦点を置きます。音声を聞いた後は、1st Listeningで作成したメモの箇所がスクリプトのどこにあるのかを探す時間を設けます。これにより、解答(特に聞き取れなかった部分)を視覚的に確認することが可能になります。なお、スクリプト使用方法の2つめや3つめ(「スクリプトを声に出して読んでみる」「流れてくる音声と同時に言ってみる」など)は、自宅学習として取り組むと、リスニング力をさらに伸ばせることを生徒に伝えるとよいでしょう。

Think : 考えることを習慣化する

Thinkでは、1st Listeningから3rd Listeningまで複数回にわたって聞いた園内放送をもとに、「自分なら、最初にどのアトラクションに行くか」「それはなぜか」という問いについて考えます。ここで重要となるのが、聞き取った情報を活かすための思考力です。

「遊園地の園内放送」の場合、具体的には、これまでの聞き取りに関するタスクで、次の点をメモに記しています。

- ・ Roller Coaster : 1時間待ち、整理券が必要。
- ・ Haunted House : 午後3時～4時まで閉館、お化けが入れ替わる。
- ・ Special Show : 午後2時開演、スケートショー、風船は入場ゲートで午後1時から入手可能。

こうした情報をもとに、自分の考えをまとめますが、その後はペア

やグループで意見を出し合ったり、クラスで発表したりする機会を設けるとよいでしょう。他者の意見を聞くことにより、思考がさらに深まるからです。例えば「最初にRoller Coasterの整理券をもらいに行く。待ち時間に別のアトラクションを楽しめるから。」と考えていた生徒も、「最初にSpecial Showに行く。早めに行ってよい場所を確保すれば、間近でスケートショーを楽しむことができるから。」というクラスメートの意見に触発され、考えを変えるかもしれません。こうしたタスクに常に触れることにより、リスニング活動を単なる聞き取りの時間で終わらせるのではなく、自分のこととしてその内容を考える習慣も身につける機会となります。

BONUSとSounds

✦ BONUS ✦ 学習内容を応用する

BONUSでは、Take Action! Listenとパラレルな音声を聞くことにより、リスニング力のさらなる伸長を目指します。「遊園地の園内放送」の場合、具体的には、クラウンランド遊園地の案内と類似した内容のスマイリーランド遊園地の放送を聞きます。生徒には、ここで学んだ聞き取り方（アトラクションに関する要点をまとめる方法）を応用するとよいことを伝え、たとえ初めて聞く音声でも、比較的容易に取り組むことができると思います。なお、BONUSでも、1st Listeningから3rd Listeningまでの段階を踏むことが可能ですが（スクリプトは指導書に掲載されています）、どの部分に力を注ぐのかは、教室の様子に応じて決めるとよいでしょう。

🔊 Sounds 🔊 音の細部を意識する

最後は、音そのものに関するタスクです。「遊園地の園内放送」では、ディクテーションを扱います。まずは、これから聞く内容がクラウンランド遊園地のHaunted Houseで流れる放送であることを確

認します。次に、空所に単語を書き入れるように指示し、音声を流しますが、書く時間を考慮し、一文ごとに音声を止めるとよいでしょう。実生活ではあり得ないことですが、ここでは、重要な情報となる数字（in about fifteen ...）や動作（cannot take your ..., get away ...）に意識を向け、それらを正確に書き取るという点を、英語学習の一環として重視します。音声を流す回数は、教室の様子を見ながら決めますが、少なくとも2回は聞かせたいところです。もし時間に余裕があれば、音読のポイントを確認し、声に出して読む練習をしてもよいと思います。音のつながりなどを理解し、実際に読めるようになることが今後のリスニング力の向上につながるからです。

このように、07NCのTake Action! Listenは、これまでのNEW CROWNのよいところをさらに進化／深化させたタスクで構成されています。こうしたタスクへの取り組みを積み重ねることにより、生徒がリスニング力を向上させるだけでなく、身近な事柄から社会的な話題まで、物事を深く考える契機にもなることを願っています。

I am “Nakanishi Koichi.”

「先生、私“Hana Tanaka”なん？私の名前『田中花』（仮名）やねんけど・・・。」教師になって間もない頃、ある生徒からもらった質問です。当時は「^{いわず}名姓」の所謂「英語式」の順が多く使われていたように思います。その時は「“Tanaka Hana”でいいはずやね。」と煮え切らないような応え方しかできませんでした。その後 NEW CROWN との出会いが私をスッキリさせてくれたのを覚えています。NEW CROWN には、**題材はもとより、言語材料にも様々な「メッセージ」が散りばめられています。**教材研究をする度に考えさせられることも多く、生徒たちと一緒に成長させてもらったことに感謝しています。そう言えばある生徒にはこんなことも聞かれました。「先生、なんで（何のために）英語を勉強するの？」生徒にとっても教師にとっても、^{ふる}旧くて新しい永遠の「問い」かもしれません。さてどう応えましょう。



中西 浩一
(平安女学院大学)

NEW CROWNとわたし